

千葉 あいご

Vol.
77

Index

- ①～② 施設長会議
- ②～③ 新型コロナウイルス集団感染対応報告
- ④ 新事業所紹介
- ⑤ わが施設の自慢・アピールポイント^⑤
- ⑥ 千葉知協トピックス
- ⑥ 協会関係予定 研修・会議（令和3年度）
- ⑥ 事務局だより・編集後記

第77号 (2021年3月号) 発行日：2021年3月20日／発行者：里見吉英／編集者：畠山正昭・菅谷大輔・秋山直樹

発行所：千葉県知的障害者福祉協会

【本部】 千葉市中央区中央4-3-5 カンガルービル4F B TEL 043-224-5721 HP <http://www.chibachiteki.com/>

【事務局】 船橋市金堀町499-1 大久保学園内 TEL 047-457-2462

施設長会議

令和2年12月3日 於：千葉市文化センター

千葉県知的障害者福祉協会会長 里見吉英

新型コロナウイルス感染拡大に関して

感染拡大が続いており、障害者福祉施設においても集団感染には至っていないものの、数名の感染報告が挙がってきています。各施設とも緊張のある中で利用者を受入れている状況であり、必死に現場支援を行っている職員達は大変な思いをしていることと案じています。当法人の複数の事業所内でも利用者の感染が発生しました。事業所数が多く情報が錯綜することから、本部に対策室を設けそこに情報を集約した上で対応を行うこととした結果、機能していると感じています。最も重要なのは施設内にウイルスを持ち込まないことであり職員には外出等での不特定多数との接触を避けるよう徹底しています。



北総育成園での新型コロナウイルス集団感染については当時全国で最初の福祉施設における集団感染だったこともあり、施設に対する非難も多く聞かれました。当時私のもとに訪れた報道記者もいかに施設の対応が悪かったかを記事にしたい事が明白であり、障害者入所施設の利用者の多くがマスクの着用が困難であることや生活全般において多くの支援を必要としソーシャルディスタンスを保つことが困難な実情を説明してもなかなか理解してもらえない事を実感しました。当協会の北総育成園への支援策としては、不足備品の供給や複数の事業所の協力のもとに終息までの間食事の配達提供を行い、現在では落ち着いていく状況にあることに安心しています。今後施設内で同様の集団感染が発生し職員が不足する事態に陥ることに備え、そ

の法人施設職員が不足を補い、更にその抜けた穴を協会施設職員が応援する協定及び障害のある方の家庭で保護者の感染が発生した場合の緊急受入先確保に関する協定書を千葉県と締結しました。今回の感染症に限らず災害時等においても困難な状況にある施設に応援が入れる体制がとれるよう当協会は連携を更に深めていく必要があります。

袖ヶ浦福祉センターの廃止に関して

袖ヶ浦福祉センターの廃止決定に伴い、利用者の移行先の決定が順調に進んでいます。令和3年末までには全利用者の移行先が決定することを目標としています。また同センターが担っている強度行動障害者への支援については当協会全体で支援すべく県との協議を進めてきました。過日、県内の各法人に利用者受入の調査を行いましたが入意向のある法人は僅か6法人でした。各圏域で利用者支援する体制構築を進めていくことから、是非とも受入協力をお願いします。受入に伴う改修工事費用等については県が予算化の方向で調整中です。センター職員の再就職先については、当協会の人材確保特別委員会を軸とした調整を進めていきます。

次年度の報酬改定動向の主な点

●令和2年度障害福祉サービス等経営実態調査より

障害各種サービス毎に平成28年度決算と令和元年度の収支差率を比較すると全体的にプラスの決算であり、就労系福祉サービス運営はマイナスとなつているものの余剰は出ている状況です。介護保険分野では全体の約3割の事業所が赤字運営となつている状況であり、法人の連携や吸収合併が進んでいくことが予想されています。

報酬改定については、現在コロナ禍にあり医療分野



全国からの応援、励ましの手紙

令和2年3月27日、風邪で休んでいた職員がPCR検査を受けたところ、陽性であったと園に連絡が入りました。そして保健所から全職員と症状のある利用者にPCR検査を行うとの連絡があり、翌28日に検査を受けたところ午後7時頃、園にフックスが届き、陽性、陽性、また陽性と次々と送られてきて何が起きたのだろうか。私と看護師で陽性の職員に電話連絡をしました。検査の結果、利用者26名、職員31名の感染が判明しました。また県や市にも報告を行い、北総育成園の集団感染が29日に報道により発表されました。同29日に国のクラスター対策班の医師、県

新型コロナウイルス集団感染対応報告

社会福祉法人さざんか会 北総育成園

副園長 白樫 久子

内感染症指定医療機関の医師と看護師、県健康福祉部次長が来園され泊まり込みで指揮を執っていただきました。30日には県、船橋市、東庄町の合同会議が開催され、31日に正式に支援対策本部が設置されました。支援対策本部の構成について対策本部長は県健康福祉部次長、健康管理は旭中央病院、千葉県病院局、香取保健所が担当、資材管理は船橋市が担当、人員調整は県健康福祉部、千葉県病院局、船橋市が担当し看護師や介護職員の派遣を調整、旭中央病院と船橋市が利用者の病状をデータ化し管理していただきました。毎日朝夕のミーティングにて利用者の体調管理や資材管理、人員調整等の報告があり情報共有がされました。園内は対策本部長、国立感染症の医師・看護師にてゾーニングされ利用者居住棟はレッドゾーン、北総職員が利用する事務室や防護服の着脱場所はイエローゾーン、対策本部はグリーンゾーンに区分けされました。医師や看護師の指導の下、北総の職員は防護服を初めて着用し、新型コロナウイルスの治療と介護業務に立ち向かいました。



衛生管理講習
感染管理認定看護師による講習

感染状況については利用者が54名、職員が37名の感染となり、常勤職員の非感染者は男性3名、女性が7名でした。保護者への連絡については、まず3月28日に全家庭へ電話連絡、29日に検査結果を全家庭へ

連絡、4月2日から約10日おきにお詫びとご報告健康状態や検査結果など終息まで7回通知をいたしました。離れて暮らすわが子、兄弟姉妹への心配はいかほどだったかと。保護者会では北総の大変さを考え、なるべく園に電話をしないよう協力してくれたとのことで、温かく見守っていただき本当にありがたかったです。終息までの経緯ですが3月29日の検査で利用者の陽性者が51名、4月19日の検査では利用者の陽性者が54名となかなか減らない状況でした。しかし、4月29日の検査では32名の陰性者が確認、5

だけでなく介護・障害分野の過酷な業務も再認識されている中で大幅な変動はないことも予想されます。

●食事提供体制加算

現在は経過措置期間中ですが、更に3年の経過措置となる方向です。

●送迎加算

現在国で検討中ではありますが、改定後も残る方向です。

●児童発達支援

1時間未満の個別療育で1日分の報酬を得ている不適切な事業所も見受けられることから、児童

発達支援の在り方が問われています。

●障害児入所支援

長年にわたり要望されてきた人員配置基準が4・1に変更となる方向ですが、新基準となった場合でも依然として十分な配置基準とは言えず、また高等部を卒業後のいわゆる「過剰児」の受入先が見つからずサービスマン費支給の経過措置が更に1年延長となる等、課題が残っています。

●施設入所支援

強度行動障害者や重症心身障害者の受入れを促進する政策の流れに向かっていきます。

●生活介護

常勤看護職員等配置加算については3名以上の配置で更に評価にすることにより重症心身障害者等の受入先の確保を模索しています。

●短期入所

短期入所の役割として、日中活動支援の充実を図るために保育士やリハビリテーションを行う専門職を配置し支援計画に基づいた活動を実施した場合には評価対象となることを検討中です。地域生活拠点に於ける短期入所については緊急以外であっても加算対象とすることも検討されています。



地元の方からの応援とタオル寄贈

食事については県より個室で提供するように指示があり、個室への配膳、食事介助を行いました。まず陰性の方から提供し、その後、陽性の方への提供を行いました。1回の食事で2時間以上の時間がかかりました。食事の調達は県知的障害者福祉協会の皆様から4月1日から47日間、70食分の昼夜のお弁当を成田市市内や千葉市内、柏市内から毎日届けてくださいました。そのお弁当を近くにある法人事業所のなすな工房にて職員が

5月6日の検査では15名の陰性者が確認、5月12日の検査で3名の陰性者が確認され、在園する入所者のすべてが陰性となりました。しかし入院後に亡くなられた方が2名、入院中の方が3名おりました。5月14日に対策本部による支援が終了し、5月15日に千葉県より、在園利用者全員の陰性化が報道されました。その後、2週間以上経過観察し検査の結果、入所者は全員の陰性が確認され、6月4日に千葉県より、北総育成園集団感染の終息の報道発表がされました。

職員の勤務状況については、北総の職員の6割が感染したため、感染していない職員だけでは通常通りの勤務は出来ませんでした。しかし入所施設は365日24時間体制が必要であります。一部の報道では感染している職員に業務させているというようなことも言われておりましたが、そのような事実はなく、法人職員が8名と船橋市職員が3名ずつ5週間の協力をいただき対応するための体制を整え、利用者の療養・介護に何とかあたることができました。

刻み食にして味噌汁と一緒に運んでくれました。介護食では冷凍食やレトルトのおかゆを多用しました。また使い捨て食器やリゾット、ゼリー、補水飲料など寄贈していただき、とてもありがたかったです。

入浴について始めの2週間は対策本部の指導もあり清拭と衣類交換を行い、最初に着ていた衣類は処分いたしました。入浴・洗濯・掃除の手順は感染症専門医師・看護師による指導の下に繰り返し学び、マニュアル化して実施しました。とにかく職員が足りず買利物や物品の準備ができない。銀行や郵便局も北総の職員は受け入れてくれず、県や船橋市の職員をお願いしました。居住空間にある掃除用具などが使えない。電話や問い合わせがやまない状況が続きました。このような状況でも対策本部の専門的な支援があったからこそ維持できたと思います。

感染廃棄物の処理については、一般ごみと区別しペール缶に廃棄するのですがペール缶が不足しており調整が大変でした。また廃棄の際、押し込んでしまうとウイルスが飛散するので注意して蓋をしなければなりません。廃棄物処理には専門業者との契約が必要でありましたが保健所が行ってくださいました。

集団感染報道から毎日非難や中傷の電話があり、職員への風評被害もありました。しかしその何十倍もの応援と励ましをいただきました。それをモチベーションとして、利用者の方々と職員でまた笑顔で北総での生活、仕事をしたいという希望を持ち取り組みました。地元の応援や保護者のご理解と支援、全国の皆様からの応援、今までのお付き合いや信頼関係がどれほど重要かを再確認いたしました。

終息後の課題について、園の衛生管理体制の見直しと徹底が必要であります。非常時にも、入所施設の機能を維持する使命と社会的責任があります。一施設だけでは難しいため、行政・関係機関との連携がとて大切であります。衛生管理指導



感染管理看護師による衛生指導

では、コロナ対応中に感染症専門医師・看護師・保健師から毎日指導を受けて、それをもとに感染防止衛生管理マニュアルを作成し全職員が取り組みました。終息後も6月、10月、12月と定期的に感染管理専門看護師から衛生管理指導を受けております。また障害者支援施設特有の仕組みや個々の障害特性への適切な支援を専門的に工夫していく必要があります。物資・資材の確保では今回は、船橋市から多くの物品納入と管理をしていただきました。感染者発生の際の備えとして、サージカルマスク、消毒用アルコール、防護服、ガウン、キャップ、フェイスシールド、ゴーグル、非常食、使い捨て食器、介護食、補水飲料、掃除用具等を備蓄しました。感染者が発生した場合にすぐ使用できるようサージカルマスク、フェイスシールド、ゴーグル、ガウン、キャップ、消毒液をセットして3日分を用意しており、感染者専用の個室も用意しております。

6月の後半から徐々に作業を開始いたしました。北総本来の「働くことは生きること」が戻ってきており、利用者もがんばっています。職員も前向きに取り組んでおります。しかし職員の中にはまだ不安を抱えている者もおります。感染した職員は息苦しさがあることや家庭内での過ごし方に不安があるなどの話も聞かれます。私たち施設での経験はどこにもしてほしくないと思いますが、集団感染のニュースがあるたび胸が痛みます。まだまだコロナ禍はつづいていくと思えますが皆様と一緒に北総育成園も前を向いていきたいと思えます。

新事業所紹介

特定非営利活動法人はちみつ 生活介護はちみつ

地域に根差した活動を目指して

当法人は、2016年4月に設立され、2017年4月より四街道市で「生活介護はちみつ」を開所致しました。現在は、20名の定員を満たし、利用者、職員共々、毎日賑やかに過ごしております。これまで、同市内の法人さまや他市で活躍されている法人さまには、色々とご指導を頂きました。この場をお借りして、お礼申し上げます。昨年には、市内で福祉関係機関連絡会という任意団体を創り、事業所間で連携できる体制が創られました。今後のコロナ禍での連携が課題になります。

さて、当施設の活動を紹介させて頂きます。生産活動では、木工製品と竹箒を作っております。木工製品は、四街道産の木材を使用し、小



はちみつ外観

物製品を中心に製作しております。竹箒は、当施設がある地域で作られている伝統的な『亀崎ほうき』を継承させて頂き、製作しております。また、開所当初から地域の中でボランティア活動を行っております。コロナ禍におかれま



活動の様子

でも、ガイドライン等を作成しながら、継続して行っております。このように、当施設は、生産活動に限らず、活動全般で「地域の中で、地域のために、地域に必要とされる施設を！」目指して取り組んでおります。現在は以前の様にとはいきませんが、地域との繋がりを大切に取組んでおります。

管理者 金室修平

社会福祉法人 佑啓会 ふる里学習舎浦安デイセンター

今出来ることを楽しみながら

私達佑啓会は令和2年6月から浦安市において生活介護と就労継続支援B型それぞれ10名で運営を開始しました。平成28年に浦安市の公募による「地域生活支援拠点」整備事業に選定され多機能拠点+面的整備の併用型として本来は平成31年にスタートするところでした。しかし、浦安という埋め立て地特有の問題や新型コロナウイルスの影響で一年以上の計画変更となりました。

生活介護では創作活動や健康維持活動を中心に行っております。また、就労継続支援B型ではパン製造と受注している軽作業に取り組んでいます。コロナ禍でのオープンという事でパンの販路拡大も苦慮しておりますが、注文販売や



エントランス

市役所の売店等でお買い求めいただいております。今の社会情勢を鑑みて大きな行事や外出も控えていますが、今出来ることを日々模索しながら小さな楽しみを積み重ねています。早くマスクなしでみんなの笑顔を見られることを心待ちにしております。



パン製造の様子

また11月からは地域生活拠点の機能としてグループホームや短期入所も運営を開始し体験利用や緊急の受け入れ、更には浦安市の事業として在宅の方々の24時間365日のヘルプコールに駆けつけて対応する緊急時支援事業にも取り組んでいます。児童分野では放課後等デイサービスと市の子育て事業一環で、障害の有無を問わず1歳から18歳までのお子さんをお預かりする子育て短期支援と、新たな事業にも取り組んでいます。始まったばかりで試行錯誤しながら、関係機関や地域の皆様に支えていただきながら歩みを進めています。研修や会議等も制約が多い中ではありますがつながりを大切に拠点事業を少しずつ形にできればと思っております。

施設長 堀金兼太郎

支援スタッフ
から見た!

わが施設の自慢・アピールポイント③⑤

平成20年度から34回にわたり89の“プチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今回は2つの“プチ自慢”です!

印旛・山武ブロック…社会福祉法人愛光…佐倉市指定管理施設…よもぎの園

コロナに負けるな！新しい挑戦！

佐倉市よもぎの園は、障害がある方の地域作業所として佐倉市が平成6年4月に開設しました。平成20年4月1日からは社会福祉法人 愛光が指定管理者として運営しており、定員40名の就労継続支援B型事業所です。

施設の建物はバリアフリーに配慮し、車椅子使用者に限らず歩行の困難な高齢者など幅広い世代の方にも安心して利用できる作りになっています。佐倉市内から通われている利用者の皆さんは、縫製、建築用品の組み立て、箱組み、封入作業など多岐にわたる作業に日々懸命に取り組んでいます。何よりも「丁寧な作業」をモットーにしていますが、おかげさまで取引先の業者様からも厚い信頼を得ております。

また、当施設では、一人一人の強みを活かしていける環境づくりに力を入れており必要に応じて利用者個々に合わせた“補助具”なども作っています。いつも一生懸命に取り組んでいる利用者が仕事を通じて社会から必要とされているという“実感を得られる場所”になればと考えております。



縫製の様子



よもぎの里 外観

しかし、残念なことに新型コロナウイルスの影響で作業に大きな打撃を受け、取引が中断する業者もでてしまいました。そこで、新たな試みとして自主生産活動に挑戦することとしました。現在は「手作り布マスク」の生産、販売を利用者・職員が一丸となって行っております。市役所でも販売をさせていただき大変好評を得ております。困難を乗り越え、今しかできないことへの挑戦の先には“明るい未来”があることを信じ、これからも皆さんと頑張っていきたいと思っております。

サービス管理責任者 近藤 真一

夷隅・長生ブロック…社会福祉法人いちちょうの里…みずほ学園

ファームの野菜で地域貢献・地域との繋がり!!

みずほ学園は勝浦市の自然に囲まれた場所にある障害者支援施設です。平成2年に開所し、色々な方に支えられて30周年を迎えることができました。

勝浦市では「熱血!!勝浦タンタンメン船団」がB-1グランプリ(2015年ゴールドグランプリ受賞)で町おこしという所に、みずほ学園ファームの玉ねぎを取り入れてもらえないか?そこから地域との繋がりが持てないか?と考え飲食店組合・商工会・熱血勝浦タンタンメン船団の方々に相談しました。今では勝浦市の飲食店数軒と玉ねぎの取引が有ります。他にも野菜ができれば教えてねと声をかけてもらえ、昨年はそら豆がすぐに完売するくらいの盛況でした。「学園の野菜は新鮮で、とにかく美味しい」との言葉も多く寄せられました。



ファームの玉ねぎ使用、勝浦タンタンメン



ファームでの活動風景

また、毎年みずほ祭りに「熱血!!勝浦タンタンメン船団」が参加しています。数年前よりファームの玉ねぎを使用してくれており、勝浦タンタンメンを食べて美味しかったと言って頂けるとファーム担当はニヤリとしています。

これからも地域との繋がりを大切にしながら、地域で活躍できる場を増やしていきたいと思っております。

支援員 深井 務

千葉知協トピックス

令和3年度 千葉県障害者スポーツ大会 実施競技予定

令和3年度の千葉県障害者スポーツ大会のスケジュールは以下の通りとなっております。マスクの着用や参加者（選手・引率者）の健康管理の実施、観客等の制限（無観客で実施する場合あり）、こまめな消毒等感染症対策を行ない、大会が開催されます。



スポーツ文化委員会
成田市のぞみの園
千葉 健彦

陸上競技の部

- 開催日 令和3年5月23日㊤
- 会場 千葉県総合スポーツセンター
陸上競技場

水泳競技の部

- 開催日 令和3年5月30日㊤
- 会場 千葉県国際総合水泳場

卓球競技の部

- 開催日 令和3年6月6日㊤
- 会場 千葉公園スポーツ施設 体育館

ボウリング競技の部

- 開催日 令和3年6月6日㊤
- 会場 VEGAアサヒボウリングセンター

フットベース競技の部

- 開催日 令和3年7月11日㊤
- 会場 千葉県総合スポーツセンター
軟式野球場・ソフトボール場

ソフトボール競技の部

- 開催日 令和3年9月10日金・11日㊤
- 会場 成田市中台運動公園野球場ほか

フライングディスク競技の部

- 開催日 令和3年10月7日㊤
- 会場 千葉県総合スポーツセンター
陸上競技場

バレーボール競技の部

- 開催日 令和3年11月7日㊤
- 会場 千葉公園スポーツ施設 体育館

サッカー競技の部

- 開催日 令和3年11月21日㊤
- 会場 市原スポーツパーク・八幡球技場

バスケットボール競技の部

- 開催日 令和3年11月27日㊤・28日㊤
- 会場 千葉公園スポーツ施設 体育館

協会関係予定 研修・会議（令和3年度）

【日本協会会議等予定】

会議名等	開催地	開催日程
全国知的障害関係施設長等会議	神奈川県 パシフィコ横浜	5月19日(火)・20日(水)
日中活動支援部会全国大会	秋田県 秋田キャッスルホテル	10月14日(水)・15日(金)
障害者支援施設部会全国大会	北海道 京王プラザホテル札幌	11月18日(水)・19日(金)
全国知的障害福祉関係職員研究大会	京都府 ロームシアター京都みやこメッセ	1月27日(水)・28日(金)

【県協会予定】

会議名等	開催地	開催日程
定期総会	グリーンタワー幕張	5月13日(水)
県障害者スポーツ大会	千葉県総合スポーツセンター（天台）	5月23日(日)
第48回県スポーツの集い	千葉県総合スポーツセンター（天台）	9月30日(水)
第29回さわかき芸能発表会	千葉県文化会館	12月7日(火)
第17回自立支援セミナー2022	千葉市市民会館	1月29日(土)

事務局便り

事務局長 千日 清

大変な一年だったと振り返ります。まだまだ見えないこの先。しかしながら、福祉の役割の大切さと、難しさが浮き彫りになった一年でもありました。誇りをもって新年度を開始します。

編集後記

くすのき苑 秋山 直樹

今年度、私の勤める施設ではインフルエンザ罹患者はいませんでした。テイクアウト昼食等、室内イベントが充実した1年でした。小さくても手を伸ばせば届くところにある幸せ、見逃さず、つかみ損ねず、新しい可能性に繋げていこう。